

私はソーシャルワーカー

南九州大学 林典生

初めまして、日本の社会福祉の創生期に活躍されていた石井十次の生誕地として有名な宮崎県の高鍋町にある南九州大学という園芸・造園の大学の教員をしております林典生です。教員歴は今のところ1年少し過ぎました。私の専門は医療・福祉の現場で利用者や職員などの関係者および学生と協働した園芸活動を通じて、利用者の生活の質を向上させるとともに、地域とのネットワーク形成を行う実践研究です。元々は、大阪府立大学農学部園芸農学科出身ですが、職場では大阪府下の医療・福祉施設で社会福祉士・精神保健福祉士および介護支援専門員として働いていました。

現在大学では利用者や職員などの関係および学生が協働して活動実践をしており、現在行っているところは老人保健施設・高齢者デイサービスといった高齢者保健福祉分野、知的障害者授産施設といった障害者福祉分野、精神科病院といった精神保健福祉分野および児童養護施設といった児童福祉分野です。

来年からは私の大学が宮崎県の都城市に新しくキャンパスができるので、現在、地域福祉分野での園芸活動を行う準備を行っているところです。そして、新しいキャンパスに保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成課程を作る準備をしており、私自身、今年からは園芸・造園系だけではなく、すでに同じ大学にある管理栄養士養成課程で授業を受け持つとともに、来年からは保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成課程で授業を受け持つ予定です。

社会福祉分野の人から見ると異分野に思われる人間ですが、なぜこのようなことになったのかは実は私自身の生い立ちに深く関係しています。私自身が発達しょうがい(現在、高機能自閉性障害)を抱えて生まれ、児童相談所や保健所および小児心療内科に通いながらようやく小学校に入る前に言葉を発するようになったのですが、授業についていけず、友達もできませんでした。家の事情で引っ越すことになり、その時に小学校での学校農園に興味湧いて、それを媒介にして友達できた経験が影響しているかと思います。

大学に進学する時に、この経験があったので、社会福祉学に進むか、園芸学に進むかで迷いましたが、学力との関係で園芸学に進みました。1年浪人した後に大学1回生で出会った園芸療法

の記事を見て、大学院の修士まで地域住民と一緒にコミュニティガーデン(市民農園)活動を行っていました。しかし、修士を出る時にバブル崩壊で、内定した造園設計事務所が倒産して、ハローワークに行き、大阪市内の知的障害者授産施設に指導員として就職しました。ところが、就職1日目に私自身は役職付きの職員が利用者に対して虐待するのを目の当たりにして、福祉に対する疑問となにも変えられない無力感にさいなまれました。やめようかどうか迷いながら、私が中学の時に亡くなった父がしていた建築の仕事をしようと思い夜間の建築の専門学校に通い、1年半過ぎてから造園設計事務所に就職しました。その時に介護付き有料老人ホームのバリアフリーガーデン設計に携わりました。

たまたま、設計の功績が認められたのと造園設計事務所の仕事がなかったので、私自身は大手電機会社の系列の介護付き有料老人ホームに出向の形で園芸活動の実践を行っていました。せっかく新しい現場を利用者や他のスタッフと一緒に作る動きがあり、私自身、改めて福祉について勉強をしようと思い、大阪にある社会福祉士の通信制の専門学校に通い、社会福祉士を取得した後、さらに精神しょうがいについて勉強をしようと思い、精神保健福祉士の専門学校に通いました。また、当時の有料老人ホームの社長が研究職出身であり、施設での園芸活動に関する話をすると、それに関する研究をすすめられて、母校の農学部博士課程に働きながら通いました。

しかし、3年過ぎて精神保健福祉士の試験を受けて、博士論文を執筆している時に造園設計事務所がうまくいけなくなり社長が夜逃げする事態が起きました。私は設計事務所のことで債権者が有料老人ホームに来るなどの迷惑をかけてしまい、有料老人ホームの出向の仕事から手をひき、私は会社を整理しながら、職場を探していました。その後、精神保健福祉士と博士(学術)を取得した後に、ハローワークで大阪北東部の小規模精神障害者通所授産施設に決まったものの、職員の代休の件で家族会と職員との争いに巻き込まれ、9日目で家族会の会長から「この話はなかったことにする」と言われ、職を失いました。

その後、すぐにハローワークで非常勤の市役所福祉事務所の精神保健福祉相談員を見つけて、週3日働きながら、3ヶ月間ハローワーク通いをし、大阪南部の精神科病院デイケアのソーシャルワーカーの仕事につきました。そこで園芸活動を行う中で、利用者が主体的に病院の裏の畑に田んぼをつくるプロジェクトを立ち上げるのを支援し、その中で利用者が望んでいた就職をするきっかけづくりになりました。1年半後、今後のことも考え介護支援専門員の資格を取得しましたが、介護支援専門員を必要としない病院の方針で、特別養護老人ホームの介護支援専門員に転職しました。しかし、私の友人から今の大学のホームページに教員公募の情報が掲載されているのを伺いし、今まで30件応募を出して落ちているので、これで最後の応募だと思い書類を提出したところ、面

接を受けて、特別養護老人ホームの仕事についてから一ヶ月後に大学の教員になることができました。

このように振り返ると、当事者の希望と一緒につむいでいく、ソーシャルワーカーとして思うのは、利用者主体の生活支援と地域ネットワーク形成を行うには、スタッフの生活を安定していく必要があると感じます。また、いろんな人と話をする中で、スタッフの生活自体が不安定であったり、スタッフの仲が悪くなるとスタッフ間の連携が崩れてしまい、利用者が抱える問題が大きくなってしまわないかと感じております。これは私の主観の部分があり、今後それが当てはまるかどうか明らかにしていく必要があります。

また、園芸活動を事例にすると、活動を行うこと自体、利用者が楽しんでもらうことで、本人や関係者の生活の質がよくなり、地域社会とのつながりを生み出している事例があります。理事長や専務理事といった決定権者が園芸活動に興味あるところが実際に行っているところが多い模様です。逆に、スタッフが興味をあり、活動を立ち上げる場合に、予算や場所の確保に大変な労力をかけてしまう場合があります。また、決定権者に理解があっても、スタッフに理解がないと活動を行うのに支障が出てしまい、活動実践を支えるボランティアが意欲を失ってしまうとともに、利用者が楽しめなくなる事態が生じてきます。

さらに、介護保険制度改正や障害者自立支援法成立などの法制度が変わることにより、活動を行うのに必要な資金の確保が難しくなっています。大学の研究の一環として資金を出したり、施設経営の都合で何の説明もなく、急に今まで楽しんでいた利用者ではなく、全く状況が違う利用者を対象に行うことが生じており、今まで楽しんでいた利用者の方々は困惑すると共に、学生は今まで利用者として築いてきた関係を改めて構築する必要があります。私自身はこのような実情について、医療や福祉の現場が良くなるために、現場とかがわって、ソーシャルワーカーとして、現場の声を代弁していくとともに、今後も誰もが住み慣れた所で生活することができるような社会を実現するために実践していきます。